

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第33号

ふれあいかわら版

講演を聴いて二時間のフライトを楽しむ

去る3月2日(土)黒埼南部公民館で、伴田敦子新潟市立赤塚小学校長を迎えて講演会が催されました。伴田校長は長年に亘って日本航空の国際線客室乗務員として勤務された民間人校長のお一人です。勤務体験からくる有意義なお話の一部をご紹介します。



伴田敦子校長

学校という世界に戸惑いつつも、共感できる場所も多く経験した。わかりやすい学校を目指していると決意を述べて講演を始められました。

最初に、「日本航空の設立時は、敗戦国を理由に日本人パイロットは許可されず、主にアメリカ人が操縦していたこと。パイロットは免許制、ライセンスの取得に実際の飛行機で飛行訓練を行うため高額な費用を要すること。スチュワーデスは契約社員として入社し、正社員になるには3年間を要すること。」等を説明されました。

次に、スチュワーデスは子どもの頃からの夢。中学生時代に「アテンションプリーズ」の人気ドラマを見てあこがれ、その夢を持ち続けてあこがれの就職先を実現したことを付言していました。

初フライトはオランダのアムステルダム。17世紀を代表するオランダの画家レンブラントの美術館に感動。ゴッホ美術館も充実していて日本の浮世絵も収蔵。コンツェルトヘボーというオーケストラは有名で、ヨーロッパにはいろいろな国にオペラやオーケストラの音楽会があるので好きな方には魅力的な訪問先であること。

ギリシャのアテネ、アクロポリスの丘にあるパルテノン神殿(約2500年前の建物)の柱に触って感激しました。市内には遺跡が随所に散在し、町の中にとけ込んでいる。観光や漁業以外に産業もなく裕福さはないが、ギリシャ人は明るく人なつこい。

イタリアの見所はローマとミラノ。イタリアは、観光・買い物・食べ物ではヨーロッパの中でピカ一。料理はどれも美味しいしシンプルなアサリの

スパゲッティを勧めたい。革製品や洋服はおしゃれで品質もよい。ローマの遺跡巡りも勧めたい。

パリは芸術・文化の都市。ルーブル美術館の本物のモナリザは魅力的で必見の名画です。ミレーの落ち穂拾いも収蔵。小学生が授業の一環で美術館で絵を模写、さすがはフランス。フランス料理は繊細で高級なイメージ、しかし、ボリュームのある庶民料理でもある。ワインは手頃な値段の物も美味しい。



講演の様子

アメリカはアラスカが大好き。空気が澄んで夏は白夜。感動はグレイシャー(氷河)で水面下は緑色、遠くはブルー。アメリカは他民族国家で外国人を意識しない。銃社会でもある。不用意に胸ポケットに手を入れると逆に打たれることもあるので要注意。

アジアはここ30年で大きく変わった。一番に変わったのは中国。日中国交回復直後は人民服で笑顔もなく暗い雰囲気。今の都市部は先進国と一緒に。農村部は旧態依然のまま。中国人は交渉力が強く一族意識の高い国民。帰国の機内の様子から察すると日本のビジネスマンは中国での交渉にストレスを強く感じているようだ。

インドは治安や衛生状態、袖の下が横行するなど問題が多い。初めての海外旅行にインドはお勧めできないこと。

ご講演の最後に海外旅行の注意点を示されましたので、以下にご紹介します。

① 飛行機

- 機内は0.8気圧、富士山の7合目の気圧です。お酒のまわりが早いので量は少なめに！
- 座ったままの長時間は血流を悪くする。適度に動かすことが肝要
- 分からないこと、困ったこと、具合が悪くなったら遠慮せずに客室乗務員を呼ぶ

② 安全

- 財布や靴などはいつ盗られるか分からない。警戒感、緊張感が必要
- 外国は安全でない。自分の安全は自分で守る。

③ 挨拶とありがとう

- 現地の人とのふれあいに現地言葉で交わす

④ 日程に余裕

- 外国は思いの外疲れる。出かける場所は少なめに、ゆっくり見た方がよい

⑤ 法律の違い

- シンガポールはゴミのポイ捨てや道につばを吐くと罰金。これはほんの一例。出発前に注意事項を確認

最後に、伴田校長は国により文化や習慣が違う。郷に入れば郷に従えで、現地の人々の習慣をまねすると行動もスムーズにできて、より楽しさを感じ取ることができることを付言して講演を終えました。



講演会場

＊ 人物探訪 ＊

人物探訪

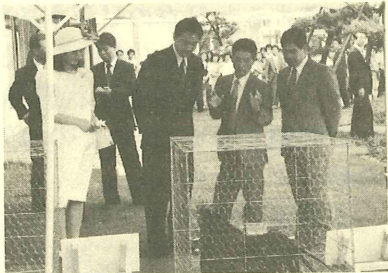
木場 富所 半一郎さん

今回は、黒埼蜀鶏日本鶏保存会の会長を20余年務めた富所半一郎さんをご紹介します。

蜀鶏(トウマル)は、昭和14年に新潟県が指定した天然記念物で、保護育成のために富所さんや12人のメンバーが頑張っておられます。

富所さんは、品評会では最優秀賞の県知事賞2回、弥彦神社日本鶏の会会長賞6回の実績を誇ります。

写真は、左から秋篠宮妃紀子さま、秋篠宮殿下、新潟県畜産試験場長、富所さんです。



平成3年、新潟ふるさと村にて

＊ 黒埼南小の伝統芸能発表会 ＊

黒埼南小学校の伝統芸能の学習発表会が2月15日(金)に同校体育館で行われました。

出演は3年生以上の児童全員で、総合学習の時間に地域の指導者の皆様から教えていただき、練習してきた伝統芸能を発表しました。

当日は保護者や地域の皆様が見守る中で、日頃の学習の成果を堂々と披露しておりました。

発表会は、福島実玖さんの「私たち3年生は今年から伝統芸能を習いました。実際に取り組んでみると難しいところが沢山ありました。各地域の伝統芸能を一生懸命発表しますので応援をお願いします。」旨のはじめの言葉でスタートします。

プログラムは木場地区の棒踊り、手踊り、花笠踊り、続いて、黒鳥地区の長刀踊り、花笠踊り、最後は板井地区の手踊り、

板井甚句の順番で発表されました。各地区の踊りの最後に児童たちの満足感溢れるコメントが加わります。



棒踊り

そして、一通りの発表が終わったところで加藤雅之校長先生から「地域の指導者のお陰で児童たちは立派に踊ることができました。卒業する6年生にとっては最後の良き思い出となりました。また、旧板井小学校のさよならイベントにご協力いただいた新潟大学の学生からも発表の輪に加わっていただき盛り上げていただきました。地域の伝統芸能が長く伝承されるようご指導をいただければ有り難い。」旨のご挨拶がありました。

各地区の指導者からも「限られた時間の中で児童たちはよく頑張ってくれました。立派に踊られた児童たちに感謝したい。指導しながら良い勉強ができました。みんなで一緒になって踊って楽しむことも大事なことです。興味を持って踊っていただいて感謝しております。」旨の満足感溢れる言葉に、見守っていた保護者や地域の皆様方も胸を熱くしておりました。



地域の指導者

最後に6年生の平林あこさんが「指導してくださったそれぞれの地域の皆さんに、丁寧に教えてくださったことに感謝します。私たちも伝統を大切にしていきたいと思えます。」旨のお礼の挨拶で無事伝統芸能の発表会を終えました。